

平成30年度 第1回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 平成30年6月25日（月） 午前10時～11時30分

場 所 京都市生涯学習総合センター 5階 第7研修室

出席委員	浅井和行	委員	五十音順
	磯野進司	委員	
	佐藤愛彦	委員	
	下村貞之	委員	
	菅原好章	委員	
	豊田まゆみ	委員	
	中村都茂子	委員	
	深澤恵美子	委員	
	吉田 功	委員	

欠席委員 高橋利華 委員

傍 聴 人 なし

1. 開会

- (1) 向井所長の挨拶
- (2) 会議出席者自己紹介
- (3) 摘録署名人に下村貞之委員長を選出

2. 議事

- (1) 平成29年度事業報告と平成30年度事業計画
「平成29年度視聴覚センター事業報告」と「平成30年度視聴覚センター事業計画」の説明を行った。
- (2) その他
平成30年3月実施した平安京創生館復元模型の全体展示について説明を行った。

[委員からの主な質問や意見など] (○は委員, ・は事務局)

○教材整備状況に関して、平成 29 年度の DVD の整備が充実しているが、どのように行ったのか。単価が安いものを選んで整備したのか。

・安く手に入るものを見つけ、選び、他の予算とやりくりしながら整備した。

○選択肢が増えることはよいことである。

○小・中学校と事情が違い、高校では、視聴覚センターで用意いただいているものを借りることが減ってきており、学校が自前で持っているもので対応している。DVD も使用するが、タブレットの活用などが進んでいる学校もある。ただ、小中学校では、視聴覚センターは活用されており、小学校の児童の発表の場を用意することは大変良いことであり、これからも継続してもらいたい。

○デジタルカメラ貸出の際の故障に関して、デジタルカメラにストラップをつけることにより、故障を減らすという結果を出していることは、非常に素晴らしい。機器を大切に使うことは大事であり、借りる側が注意するだけでなく、視聴覚センター側から方策を考えたことも素晴らしい。

○キッズアニメを毎年してもらっており、夏の暑い日は行き先が限られてくる中で、このように子どもと一緒に映画を観賞するというような事業を企画してもらえることは大変ありがたい。年々夏が暑くなっている中で、時代に沿った取組であり、継続してもらいたい。

○人権啓発映画試写会の参加人数が少ないことに関して、京都市では 12 月に人権啓発の取組を実施していると思うが、その際に PTA でも絵葉書の配布等を行っており、そういう取組とも連動して実施してみることも検討してはどうか。せっかく良い取組をしているのに、参加人数が少ないのは淋しい。

○人権啓発の映画に関して、保護者の方に観てもらったり、子ども達に観させるなどの取組を以前は学校でもしていたと思うが、一時からあまりしなくなった。今も人権啓発映画試写会のような取組を実施していることを再確認できた。学校現場などでも知らない先生方などもあると思うので、もっと広められるような取組を行ってはどうか。

○メディアということを考えたとき、10～20 年前と今とでは、物がだいぶ変わってきている。たとえば VHS などは再生する機械が生産されていなかったりする。メディアの活用という観点からは、今の社会の要請に合わせたものとなると思う

が、例えばスマホやタブレットの活用など。

総合教育センターに学校用 DVD が移管されたとのことだが、現在、NHK では、「NHK for School」という取組の中で、幼稚園・小学校・中学校向けの番組をたくさん作っており、配信しているので、学校現場においてそれを活用することも一つの方法。視聴覚センターや総合教育センターの DVD などを活用することも必要だが。そういう色々な分野のものをメディアとして活用することも今後の方向だと考えている。

- 大人向け・子ども向けの映画上映会やクールスポット映画会など、大きな画面で映像を観るということで、人数もそれなりに集まっているようなので、視聴覚センターの特色として、継続してもらいたい。
- 京都市の視聴覚センターなので、京都らしいものを、時代がたっても残してほしい。平安京創生館の模型はもとより、古いが貴重な映像など。映像の保存にあたっては、大学等との連携も検討してはどうか。
- 多くの映画を上映してもらえると、夏休みなどは大変ありがたい。ただ、キッズシネマについては、もう少し対象年齢を上げたものも上映してもらえるとありがたい。
- 16 ミリ映写機に関しては、今の子ども達はほとんど見たことがなく、デジタル化している世の中で、アナログ的な味のある画像に触れてもらえたらと思うので、機会があれば学校などで見せてもらえるとありがたい。
- 小学6年生では歴史を学ぶと思うが、平安京のことは京都のことなので、ぜひ触れてもらいたい。そのように触れる機会が増えると、子ども達はもっと歴史に興味を持つのでは。学校にもっと平安京創生館をアピールしてってもらえるとありがたい。
- 人権啓発映画に関して、もっとアピールしてもらえると、PTA の役員の方々は興味を持つのではないか。
- 少子化高齢化で放送を志す若者が減ってきている中で、小中高からの人材育成・発掘の観点から、放送コンクールなどの取組は大変いい機会でもあるので、継続していただきたい。
- 「NHK for School」には教育関連のコンテンツが大量にあるので、教育目的で非営利であれば無償提供できる。DVD を無償で譲渡することはできないが、上映する分には構わない。また教育関連以外でも認知症予防などの映像も提供可能。
- 視聴覚センターには 40 年近い歴史があり、その中で求められる役割も変わってきていると感じている。そのような中で色々と視聴覚センターでも考えていると

思うが、それが形になりつつあると考えている。特に教育関係に関しては、総合教育センターとの役割分担などが明確になってきたと感じている。

- 「NHK for School」は、学校教育のために作られているが、一般市民の方を対象とした生涯学習にも使えるようなコンテンツもあるので、そのようなものを視聴覚センターで活用することも一つの考えだと思う。

- ・人権啓発映画試写会に関しては、平成 29 年度は参加人数が少なかったこともあり、主管課とも協議をしたが、財政的な事情もあり、毎年資料を購入することが難しくなっているとのこと。そのため、3 年に 1 回、新しい資料を購入するという形に切り替えていかざるをえないのが現状である。そのような中、新しい資料の試写会というかたちの事業であるが、新しい資料購入が 3 年に 1 回となると、試写会も 3 年に 1 回にするのかという話もある。ただ、委員の皆様のお話を聞ききすると、これまでの取組が十分伝えきれていなかった部分もあるので、現在は学校を通して PTA の方々の参加を募っているが、違うチャンネルも検討していければと考えている。
- ・視聴覚センターで保管している資料に関して、現在、点検・整理を少しずつ行っているところである。どのような予算・組織でどのような事業を継続していくのかを念頭に置きながら、資料に関しても、残していかなくてもいけないものをしっかり精査していく手立ても考えていく必要性を感じている。予算をかけて新しいものを購入したり、作ったりすることもできるが、予算がない中でどういったことができるのかを委員会の皆様のお知恵も拝借しながら、考えていきたい。

- 視聴覚センター所蔵の資料を市民の方々が検索できるシステムなどはあるのか。あるのであれば、チラシなどの検索方法を掲載してもらえるとありがたい。またそのようなシステムがなくても、一覧のファイルがどこかに公開されていれば、検索も可能だと思う。

- ・視聴覚センターのホームページに検索できるシステムがある。ただ、それだけでなく、他の情報発信も必要なのではと考えている。

- 人権啓発の DVD に関して、障害者差別解消法の施行以降、学校教育の場でも関連の事業を行っているが、一般市民の方々には伝わっていないこともあると考えられるので、関連のテーマに関する広報などを行うと、市民の方々も視聴覚センターへ足を運ぶのではないかと。

- ・障害者差別解消法に関しては、職員向けの動きは活発であったが、視聴覚センターの役割として、市民の方々にお伝えしていくことも求められているので、関連資料の導入等の際には、広く周知していくための工夫が必要であると考え

ている。バリアフリー映画会のように、視聴覚センターや京都アスニーでの他の事業とも連携させながら、情報発信していければと考えている。

3. 閉会